南太平洋見聞記 ③

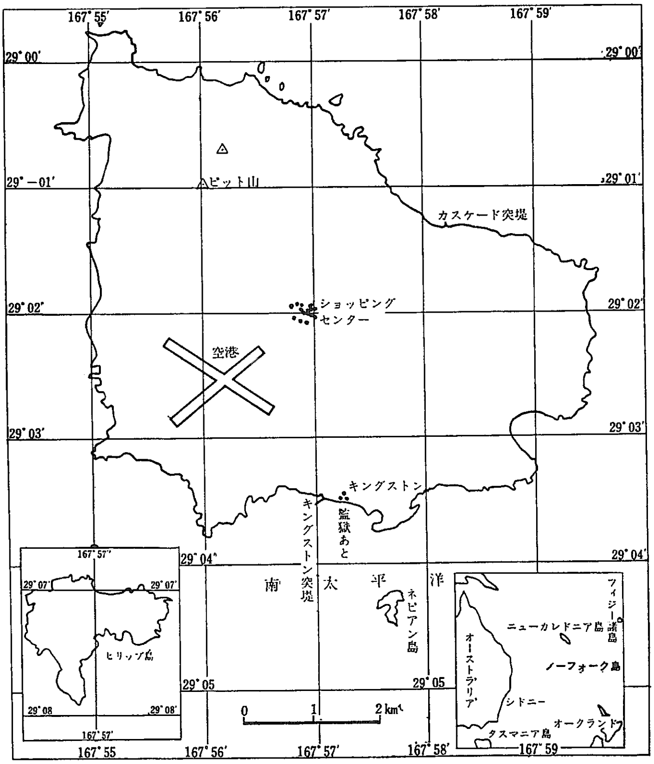
沢田秀穂

(3) ノーホーク島

ノーホークアイランドといっても日本の読者にはほとんどおなじみの方はないだろう． この島は オーストラリアとニュージーランドとの間 ややニュージーランドよりにある絶海の孤島で 同時にまたニュージーランドとニューカレドニアとのほぼ中間にある． この島については 実をいえば私自身も全く無知で たまたまオーストラリアからニュージーランドに渡るために地図をながめている内に この小さな島をみつけ さらにシドニーからオークランドへとぶ航空路がこの島に立よることを知り どうやら飛行機代をあまりよけい払わなくても この島を訪れることができるらしいとわかり それならばひとつこの島を訪れてみようかということになった次第である． 同行する予定の家内もこの案に賛意を表し はじめはわずか1時間15分ほどと思われていた滞留時間も 24時間は滞在することができるとわかり 3月24日の夕方無事この島に足を印することができた時には いささかの心のときめきさえ覚えた．

もとよりわずか1日の滞在では何程の見聞もあろうはずはないが 島を離れるに当って空港でツーリストビューローの秘書べィリー嬢にお願いした資料をちゃんと東京まで送って頂けたので 以下おもにこの資料にしたがい この島について若干の紹介を試みる次第 それにしても飛行機が出発するという忙しいたてこんだ時のこのような口約束をちゃんと守るということが たとえ悪意がなく 他の日々目前の用事にかまけてにしても なかなかできにくい例が多いにつけ そしてこうしたことが旅する外国人にとってよいにつけ わるいにつけ その土地その国の深い印象となることを思えば このノーホーク島の人々の例は 全く立派なお手本であったといえよう．

余談はさておき 話を島の紹介にもどすと この島は南緯29度 東経168度にあって 赤道に対してはわがアマミ大島とほぼ同じ距離にあり 経度ではアリューシャン群島西部のソ連領の島々および中部太平洋のウェーク島に近い位置にある． この島へはオーストラリアのシドニーから週2回 ニュージーランドのオークランドからも週2回の航空便があり 前者からの距離は約1,700km 後者からは約1,100km であるが 現在のところ旅客機の飛行時間は それぞれ約6時間および約4時間を要する． 島の形は南西に頂点をもち底辺がほぼ 10km 他の二辺がそれぞれ約 8km の二等辺三角形に近く 面積は 3,445ヘクタール 海岸線の長さは 30km あまりにおよぶ． 島の地質についてはキャンベラにあるオーストラリア地質調査所のノークス博士が 1958年に島の北東側の揚陸地カスケード突堤付近の落石調査を行ない未公表の報告をだしている他は近頃の資料がない． このノ博士の報告は同調査所長フィッシャー博士の好意により著者の説明とともに筆者に示された． 島の大部分はこの突堤付近にあらわれているようなほぼ水平に横たわる玄武岩 凝灰岩および集塊岩におおわれている模様で 一部分に石灰分の多い砂岩がみられる． 島の海岸線は平面的には出入が少なく 湾というべきものはすべて沖に向って開いた浅いものである上に 南岸のキングストン付近を除くと 海岸線のほとんど全部が上記の玄武岩などからなる数10mの断崖をなしており 汽船を接岸することができない． したがって人員物資の陸あげには前に記した北東側のカスケード突堤と 南岸のキングストンの突堤とをその時時の天候・海況によって使いわけ はしけによって これを行



ノーホーク島位置図

なうほかはない． 航空機は島の南西 海抜約100mの丘上にX型にのびる２つの滑走路に下りるが これも大さの関係からプロペラのDC4が着陸しうる最大の飛行機である．

島の平均高度は約100m 島の南部および東部 全島の約３分の２の面積は 海抜約100mのゆるい起伏のある台地状の地域で占られ 約10本の川が若い谷をきざんでいる． 島の北西部の三角形の地域は海抜約300mの２つの頂きをもつ山を形づくり 山頂部から放射状に短かい川が流れだしている． この山の大部分は保安林でおおわれ 大型のシダやビンローのような木が生いしげっている原生林である． この北西の山岳部を除けば全島いたる所に自動車のとおる道が網の目のように走り その一部は舗装されている． 人家もまたこの山の部分以外の地域では比較的平均して分布するが 島の中央部が比較的密度が高く 無税のショッピングセンターもこの部分にある． この島には２つの小島が属していてともに無人 １つは本島の南約1kmにあるネピアンというサンゴ性砂岩からなる島 もう１つは約6km南のヒリップ島で これは風化した玄武岩からなり 最高点は海抜約300mである． ヒリップ島は風化がはなはだしくて表土はほとんどなく 海鳥の繁殖地として保護地区になっている．

ノーホーク島は大部分が緑の草におおわれ これを本島原産のノーホーク松という大きな美しい松柏科の木が点綴し 飛行機がこの島の上空に達すると芝生の公園の中にすべりこむ様な錯覚におそわれる． 空港の滑走路の一本もまた芝をしきつめたような草におおわれている．

島の気候は温和で年間を通じての変化が少ない． 平均日最高気温は摂氏19度と27度の間 平均日最低気温が７度と19度の間である． 1956年から1965年までの10年間における最高最低気温をみると 最高気温は24.7度から27.3度の間 最低気温が8.2度から13.3度の間で変化している（第１表）

第１表 1956年から1965年にわたる間の年間降水量および最高・最低気温（毎年度は６月30におわる）

年 度	年降水量（cm）	気温（摂氏）	
		最 高	最 低
1956	1845	26.5	10.0
1957	1154	27.0	9.5
1958	1443	27.0	8.8
1959	1435	27.1	9.4
1960	1266	27.3	10.0
1961	1342	26.6	8.2
1962	1949	26.0	9.8
1963	1341	27.3	10.7
1964	1377	25.1	13.2
1965	994	24.7	13.3
平 均	1415	26.5	10.3

第２表 1964年７月から1965年６月にいたる１年間降水量 湿度および気温

年 月		全降水量（points）	月間平均相対湿度（%）	気温（摂氏）	
				最 高	最 低
1964	7	371	78	19.2	14.7
	8	756	76	18.8	14.1
	9	131	77	19.0	13.3
	10	536	79	19.7	14.3
	11	347	77	20.9	15.3
	12	174	77	23.1	17.2
1965	1	326	74	24.7	18.4
	2	158	77	24.2	18.7
	3	150	75	23.0	18.0
	4	96	73	22.8	17.6
	5	226	72	20.4	14.8
	6	642	77	18.6	14.2
	計	3,913	平 均 76	平均 21.2	平均15.9

1964年７月から1965年６月までの月最高・最低気温は第２表に示したとおりで 最高気温が摂氏18.6度から24.7度 最低気温は13.3度から18.7度の間で変化し 年平均はそれぞれ21.2度と15.9度とになり いかに年間を通じ気温が適温であり大きな変化がないかがわかる．

平均年降水量は1,346mm 1956年から1965年までの10年間のそれは1,415mmである（第１表）． また1964年７月から1965年６月までの１年間の月間降水量は第２表にみられるとおりである． また同じ期間における月間平均相対湿度は同じ表から知られるようにかなり高く また非常に変化が少なく 72%から79%の間で変化するだけである．

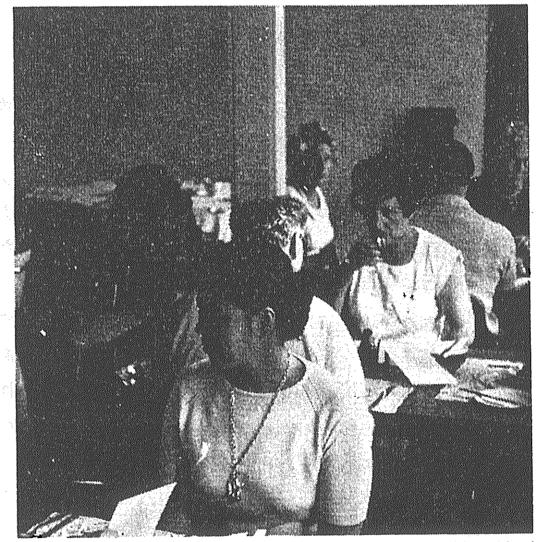
平均日照時間は長く１日約７時間 夏にはやや湿度が高くなるが 海軟風がふくのでその影響は緩和される． また島は暴風圏外にある． こうした温和な気候で適度の降水量があり また土は肥えているため この島は植物栽培にはきわめて適していて 温帯から熱帯にわたるいろいろな果物や野菜が生い茂っている．

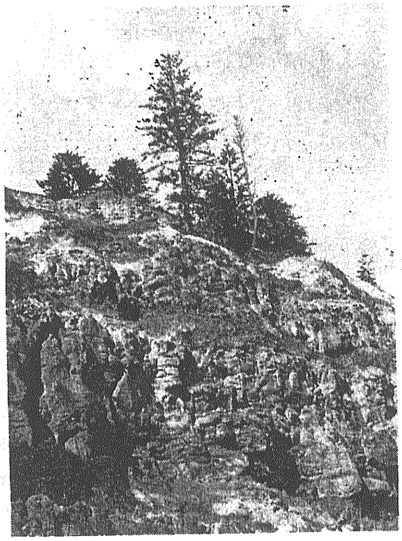
1931年に厚生省 シドニー大学および島当局によって衛生調査が行なわれ その結果この島はきわめて病気が少ないということがわかった． フィラリア 十二指腸虫 そのほか熱帯に普通の病気は痕跡すらみとめられず マラリアもしられていない． 衣類は普通 型式ばらないものが用いられ 一年の大部分は軽装ですむが冬には軽い羊毛製品が必要となる． 女性の靴下は一般に用いられず サンダルか軽い靴で用はたりる． 島にはドライクリーニングの設備はなく また洗濯屋なるものもない．

この島を白人がみつけたのは1774年キャプテンクックによってであり 島の名は彼がつけた． 当時は無人であったが以前人が—多分ポリネシア人が—すんだ形跡が

←
ノーホーク島空港ターミナルビルの入口「ノーホーク島高度 349フィート」の文字がみえる右はバウンティ号乗組員の子孫といわれるタクシーの運転手
左は筆者夫人
屋上にオーストラリアの国旗がみえる

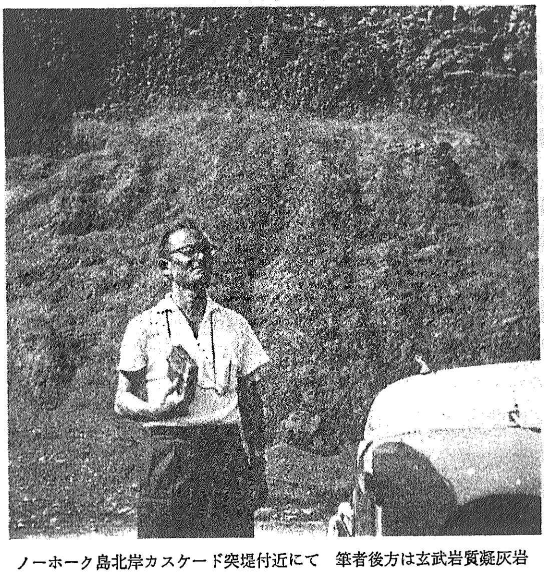
→
ノーホーク島ノーホークホテル食堂の朝食





ノーホーク島北岸カスケード突堤付近の玄武岩質熔岩 集塊岩 凝灰岩の崖 ノーホーク松が生えている

ノーホーク島南岸キングストンの海岸 手前は石灰質砂岩の露頭 遠景右はフィリップ島 左に少し見えるのがネピアン島



ノーホーク島北岸カスケード突堤付近にて 筆者後方は玄武岩質凝灰岩

ノーホーク島北岸カスケード突堤付近の玄武岩質熔岩 集塊岩 凝灰岩の崖

のこっていた． 1788年になると第一代のニューサウスウェールス州の知事によって派遣されたキング海軍少佐がサプライ号という船に乗って シドニーから島に渡りこれを占領 囚人植民地とすることになった． キングは島の南側（後のキングストン）に部落をつくり男9人女6人の囚人を収容 囚人たちは当時島をおおっていた熱帯降雨林の伐採を開始した． はじめ英国政府はクックの発見したノーホーク松とニュージーランド大麻とによって同国海軍用の帆桁と帆布とを得ようとしたのであったがこれは失敗におわった． しかし農業の方はこれよりもましで 深い降雨林が次第に伐採されるにしたがい 小さな農場が島の中央部 および南西部に作られ 1804年までには島の人口は自由移民・囚人合わせて1,100人に達し 1810年には島の四分の一以上が開墾されていた． しかし時として穀物と塩漬豚肉とのシドニーへの積出しがあったものの 一部の食物を除いては島の自給は達成できず 管理費が常にかかりすぎ 本土との連絡もまた困難で タスマニアの新植民地建設の方に島民を使った方が有利であったため 1803年英国植民相は島民をポートフィリップまたはタスマニアに移すよう命令をだした． しかしながら当時ニューサウスウェール知事であったキング海軍大佐はこの命令の遂行をしぶった というのは彼はこの島が農業的に必ずみこみがあると信じ シドニーに対し最もよい食料の供給源になると考えていたからである．

ともあれ島の人口は1806年をすぎると歩一歩減少の道をたどり その後の知事が島民の転出をすすめ 1813年時の知事によってこれが完了 最後の島民はニューノーホークに移され建物を全部こわすようにという命令がだされるに至り かくて1814年初頭には島は完全に放棄されてしまった．

以後1825年にいたるまでは時々捕鯨船とか英国の定期船とかが たまに水を求めてたちよるほかは全く無人の状態にあった． 1825年から1855年まで島は再び囚人収容の場所となり しかも今度はニューサウスウェールス州やタスマニア島からの重犯や凶悪犯の囚人のこらしめの場として ある知事のことばをかりれば〝死刑を除く一番ひどい懲罰の場所〟となったのである． これらの囚人たちは食物をつくり 牢獄そのほかの石造の建築物をつくるのに使役された． 設営はキングストン カスケードおよびロングリッジで行なわれ その間を発達した道路網で結び かなり立派な建物が数多く建られ その内いくつかは現在もなお使用されている． 最近は観光資源としてのこれらの建物の価値がみとめられ 復元されたものもあり また十三階段のあとの今に残る石造りの壁などは白昼なお鬼気迫るものがある．

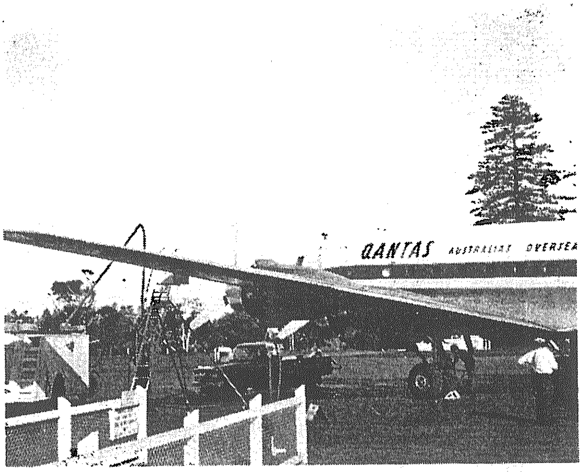
当時は囚人以外の移住者は認められず一人の農業監督の指揮によって囚人がすべての作業に従事した． おもな産物はトウモロコシ コムギそのほかの穀物で また多種類の果物があり これは囚人たちによって栽培されたものと 以前の植民のあと野性化したものとがあった．

羊の数はすこぶる多く 1846年には5,228頭と報告され 羊毛がシドニーに売られたこともある．

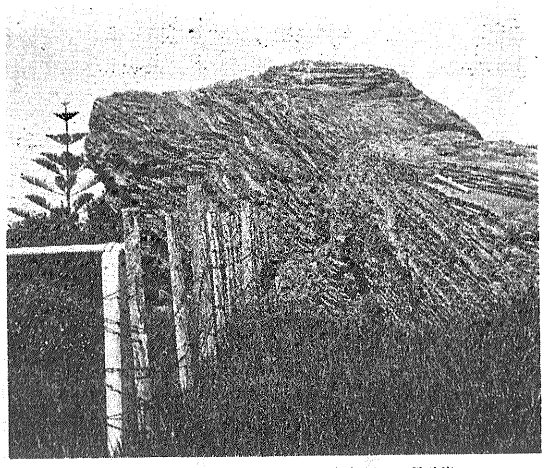
1840年から1844年にわたっての植民地の統治に当った海軍大佐 Alexander Maconochie はこの時代における傑出した人物で文化的な統治者であった． すなわち彼は多くの改革を行ない 囚人の居住区を改良し 囚人に菜園を作ることをゆるして その物質的生活を大いに改善した． 善行によって刑を免ずるという彼の考は当時にあっては革命的なものであったため 時の政府の反対にあう結果となった． 1844年になると島はニューサウスウェールス州からタスマニアの管理下にうつされ 第二植民期の終りに至る． この島の孤立性の故に植民の管理をうまくやることは この時期にあっても困難となり またこの時代には 権力の乱用があまりにははなはだしく ついにそのため英国政府は1847年この事業を閉鎖することに決し 番人として少数の人間を残して島は1855年5月再び無人の島と化した．

1851年になるとPitcairn島7）にいたバウンティ号の反乱乗組員の子孫たちを収容するのにこの島が適しているという話がもち上った． すなわち1820年代にはすでにPitcairn 島の人口がふえて約5 km² しかない同島の資源では その人口をまかないきれそうもないことがはっきりしてきて その結果1831年にタヒチへの移民をみたものの Pitcairn 島民とタヒチ人とでは人種的にも文化的にも性があわぬためこれは失敗におわった． P島へもどってからも人口は増す一方で 何らかの手をうつことが必要となり 島民は不安を感じつつも再度転出のやむなきにいたり 1855年ノーホーク島は囚人島としては放棄され Pitcairn 島民を移民さすことに決定した．

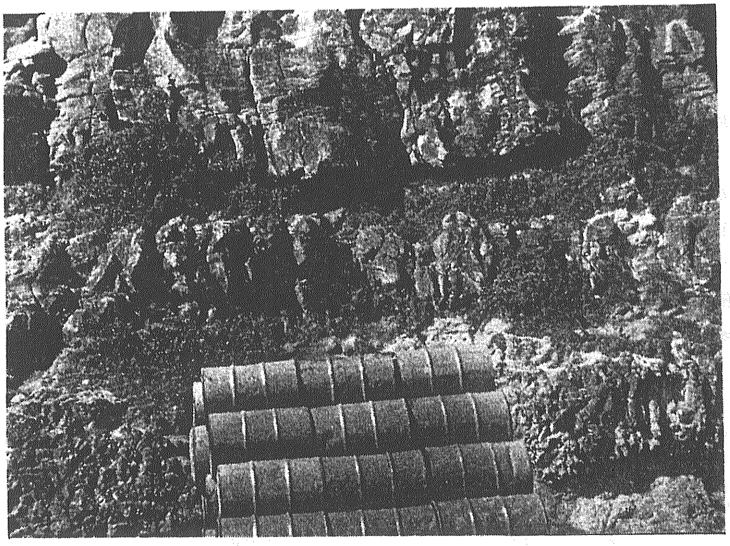
1856年島民計194名（男40 女47 男児54 女児53）はノーホーク島に移り 残留していた少数の囚人たちは同時に島から引きあげられていった． 同年行政的にも独立した植民地としてニューサウスウェールス州知事の管轄下におかれることになり 1896年には同州の属領となり 1913年オーストラリア連邦の一準州となって現在におよんでいる． なお Pitcairn 島からきた人々の中には借地問題から不満を感じてまた同島にもどったものもあり 1858年には16人 1863年にはさらに30人がノーホークから離島している． 1867年メラネシア布教団が本部をこの島におき 以後この島の文化的発展に非常に



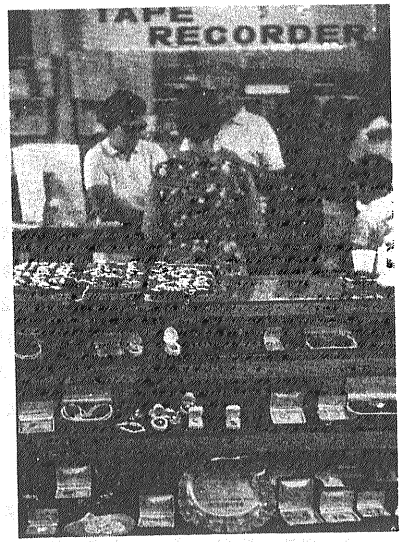
ノーホーク島空港　ノーホーク松とカンタス航空のＤＣ４型機



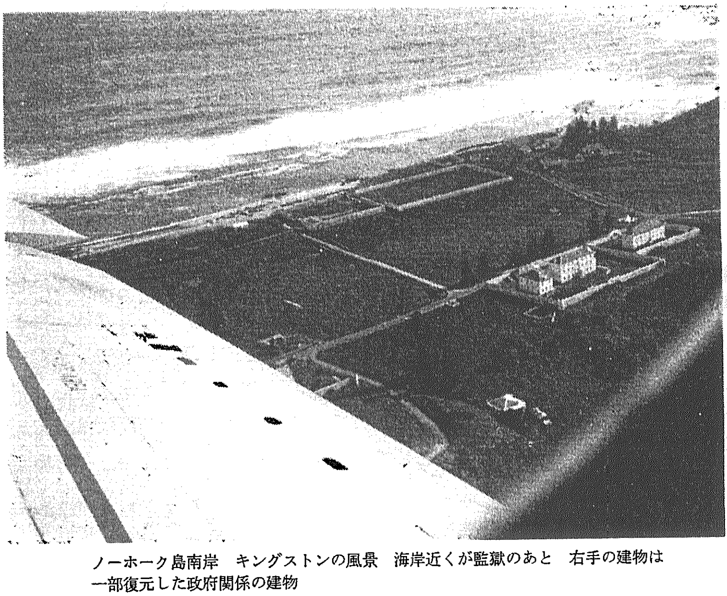
ノーホーク島　南岸　キングストン海岸の石灰質砂岩



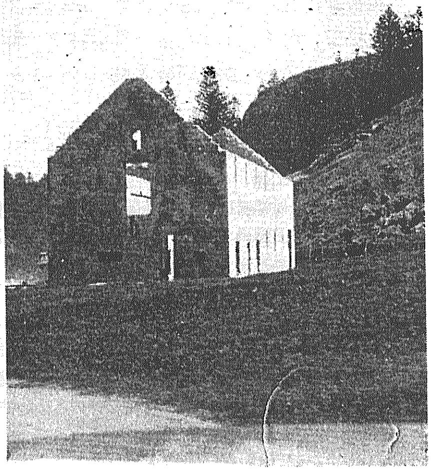
ノーホーク島北岸　ガソリン集積所　地質は玄武岩質熔岩　集塊岩　凝灰岩の崖



ノーホーク島　中央部にある無税の店
日本のミキモト真珠などがみえる



ノーホーク島南岸　キングストンの風景　海岸近くが監獄のあと　右手の建物は
一部復元した政府関係の建物



ノーホーク島南岸　キングストンの監獄のあと

貢献した． この本部は後 ソロモン群島にうつつたがその教会堂は今にのこり 英国教会によって使用されている．

現在では総督の任命する一人の行政官が一般行政を行ない 選挙による任期２年の８人の議員からなる島議会が島に関する事がらすべてについて行政官（島議会長をかねる）に対し勧告を与える． 予算などのことがらについては必ず議会にはかる必要がある．

現在の島民は一部はPitcairn 島からきた人々の子孫で本島人とよばれ その他のおもにオーストラリアとニュージランドからきた人々は本土人とよばれている． 前者はアクセントのみられない英語をはなしその家庭やなかまの間では一般に“West County”英語とタヒチ語とから由来した一つの方言をあやつる． 筆者の島内見学の折のタクシーを運転していたのはやはりこのバウンティ号乗組の子孫と称する中年の婦人であった．

人口は1961年６月29日に844人 内421人が男 423人が女 1964年６月30日には853人で 1965年６月30日の人口は推定980人であった． 1964年７月１日から1965年６月30日までの１年間の出生は男５人 女９人 計14人 死亡は男９人 女３人 計12人 結婚したのは９組であった． 島の出入の記録では 入島はオーストラリアから2,823人 ニュージーランドから2,888人 その他から96人の計5,807人 これに対し出島はオーストラリアへ2,683人 ニュージランドへ2,829人 その他へ181人 計5,693人で 入島者中航空機によるものが5,761人 船によるものが46人 出島者では 5,676人が飛行機 17人が船によっている．

島の行政についてみると 島庁には秘書課の他厚生 農業 測量 教育 警務 林務 郵政 会計および工務の９課がある． 各課の1965年６月末の構成は次に記すとおりである（特に記さないものは各１名宛）：—

秘書課は長のほか記録係書記 部内会計監査書記 速記—秘書 女子タイピスト 予備書記 酒類取扱書記—パートタイマー 女子図書係員—パートタイマー

会計係は長のほか出納係書記 会計係書記
登記 には登記係
警務および関税課には警務官兼関税官 関税係書記
郵政課には郵便局長 郵政官 女子切手係官 女子助手
厚生課には政府医官
教育課には主任 教師（６人）
林務課には林務官 労務者（３人）
工務課には工務監督官 工務官 機械係 保線工夫／メーターリーダ 工場運転係（２人） 大工（２人） 塗装係（２人） 機械係助手 熟練労務者（２人） 寺男／掃除夫
測量課には製図助手 鎖手／製図係
農業課には農業検査官 農務官 労務者（２人）である

なおこの農業検査官についていえば この島は南太平洋の他の島々におとらず動植物の持込みについては厳重をきわめ 他の手つづき事務はないに等しいこの島の小さな空港事務所で かなり広い一室を全くこの用にあて二人の係員が目をひからせ 一人一人の乗客の手荷物をほとんど例外なしにひとつづつあけさせ 真剣に検査していた． 島にはなおこの他に商業および普通裁判所 検屍官 陪審員 酒類販売免許委員会がある．

島民の生業は従来主として農業 牧畜 漁業であったが 1962年頃から観光客の来訪が激増し 島の経済は急速に変化しつつある． これらの観光客を相手とするホテル ゲストハウス 商店などに島民は働き また役所 航空局 建設産業の活動が大となるにつれ これに働く労務者の数もふえ 第一次産業を専業とする人口の割合は次第に縮小してきた． 現在ではこの島では 肉類 果物 野菜は自給自足するにたらず そのおもな理由の一つは島民が第一次産業の不安定な収入よりも直ちに現金収入のある労働を好むためである． もっとも島外からの腐敗しやすい食料品は高価であるため 現地産の品物が有利となつてきているので 島民の中には農業にまた戻るものもでてきている．

食用植物は多種多様で販売用および自家用に供される．トウモロコシ コムギなどの穀類 野菜としてジャガイモ サツマイモ 玉ネギそのほかの根菜cucurbis gourds 豆類 トマト 葉菜 果物としてはオレンヂ レモン バナナ powpaws メロン類 カスタードアプル モモ ナシ guavas トケイソウの実 avocado monstera deliciosa そのほか 堅果類 pecan macadamia コーヒーなどがあり 花や装飾用植物の中には販売用に栽培されているものもある． 無病虫害種豆は従来オーストラリアへの移出品として重要なものであつたが 市場条件が不利となつてきているので 栽培面積は近年減少し 1963/64年度の34ヘクタールから1964/65年度には13ヘクタールにへり さらにこの傾向はつづいてこれより２年後には全く栽培されなくなるみこみである．

花の種そのほかの野菜の種の生産もあり 野菜と花をニュージーランドへ空輸用に生産することも将来不可能ではないが努力と資本とを要する事業である． またレモンからクエン酸や精油を作ることも可能とされている．

工業・農業がさらに発展するについておもな障害になつているのは本土市場までの運賃が高いことで 土地そのものは水にはあまり恵まれないが肥沃である．

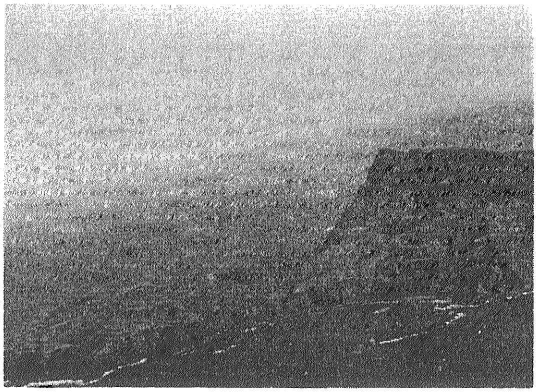
島内の牧場あるいはこれに適する土地の面積は大であるが牧畜業としてはそう大きなものではない． 整備を要する地域が多く 飼育についても十分に改良して土地の生産性を高める必要がある． 現在家畜としては牛

馬　羊および豚がある.　家禽は家庭用のほかには生産がないが　卵や肉用の家禽産業の発展を妨げるような自然条件は全くない.　牛の飼育は大きなものではないが現在の所　島内の牛肉の需要年間700頭をみたすには十分であるが　観光事業の発展に伴いさらに需要がみこまれている.　他の食肉に相当量輸入されている.　酪農製品は島内産のものも販売されているが　多くはこれまた輸入に仰いでいる.　所有地は細分されかつ水不足であるため家畜は公有地に放牧されている.　前述のとおり牧場の改良と放牧・飼育の改善とが必要でまた飼料についてもいろいろ問題がある.　飼料の島内における耕作はあまり好結果がえられず　輸入飼料は高価なため肉や家禽の生産費が急騰し　そのため肉類を輸入しても引合うようになってしまつた.　コムギについての実験は好成績をあげ　コムギの耕作を進めることによって　安い飼料を十分に供給できるようになるのではないかと考えられている.　良種の種馬の輸入助成金は島庁によって与えられることになり　これは家畜の品種改良が目的である.

農業と牧畜の将来性については　観光事業からの収入によって農村産業に必要な資本の開発が多少なりとも可能になるだろうということから明るい希望がもたれている.　ここ数年の間　島の森林資源改良のため多大の努力がなされてきており　とくにノーホークアイランド松の再生刷新とユーカリ類を生産して将来硬木を供給しようとする計画とに注意がむけられている.　松丸太を試みに輸出することは　1960年来オーストラリア向けに行なわれていて　今までの所ベニヤ材として好評をえているが　1964/65年には島内の建築材の需要が増加したため木材の輸出はみられなかった.　この他　松の種子約166kg がこの年間に島庁により海外に輸出され　また個人によってニュージーランドその他に輸出されているものもある.

漁業についていえば　島民は伝統的に優秀な漁民で島周辺の海からは食用魚が多種多量に産している.　しかしながら漁港を欠き　天候も変りやすいため　一定の漁業が確立せず　魚の供給が不安定のためせつかく前年開始した急速冷凍工場も　急速冷凍切り身のいい市場をオーラトリアに獲得したにもかかわらず　閉鎖のやむなきに至つた.　また1956年に設けられた捕鯨基地は1961年期および1962年期には170頭の割当てをえたけれども鯨が少ないため1962年期には活動をやめてしまっている.

したがって今日では漁業といっても　自家用およびホテルやゲストハウスへの少量を供給するためにとるパートタイム漁民に限られている.



ノーホーク島の属島　　フィリップ島

ノーホーク島郵便局は郵便および普通の勤務時間内の電話をとり扱っている.　同局は島独自の切手を発行し郵便物はオーストラリアおよびニュージーランドを経由して外国へ送られ　手紙は大方またかなりの小包が週2回の航空便によって送られ　のこりは船便となる.　電話は緊急用に病院　医官　警察　空港および消防にいつでも連絡できる.　1965年6月末現在で島内の加入電話数は43である.　なおこの郵便局は1965年5月26日南部海岸のキングストンから島の中央で空港ターミナルビルに隣接したショッピングセンターに移っており　島の交通・経済活動の上の変化を示す一端として興味が深い.

電信は海外電絡委員会がシドニーとのモールス符号ラジオ回路によって電信サービスをしている.　キングストンの島庁に放送所があつて毎ウィークデーの朝　地方ニュース　船　航空機発着状況　天気予報そのほか島民にとって重要な報道を放送している.　その中には毎朝のラジオオーストラリアの中継放送もある.　島庁からはノーホーク島官報とノーホークニュースとが週刊でだされており　私的新聞を公刊しようという計画もかなりすすんでいる.

自動車道路の延長は約80km　1964/65年度には　このうち約10km が舗装されていた.　未舗装のうち主要道路はサンゴでカバーしてある.　1965年6月末現在で次のような車が登録されていて　前年に比べ42台ふえている.

乗用車　トラック　実用車	388台
バス　トラクター	14台
オートバイ　スクーター　トレーラー	82台
公　用　車	20台
計	504台

島内にはタクシーとハイヤーとがあり　また学校バスが生徒用に1台ある.　島民にとっては　自家用車はほ

とんど必需品となつている． その島内での値段は英本国なみである． 観光客用には貸し車があり自動車のほか ホンダのカブなどが借りられる．

空港はオーストラリア連邦民間航空省の管轄下にあり東南東から西北西に走る 草でおおわれた延長1830mの滑走路と 北々東一南々西に走るサンゴをしいた延長1,680m の滑走路が島の南西部丘上に交差している．カンタス航空会社(オーストラリアの国営国際航空会社)の DC_4 スカイマスターが毎週水・土曜に飛来し 同日さらにニュージーランドまでとび 帰路はニュージーランド—ノーホーク島—オーストラリアを毎木・日曜にとぶ ノーホーク島とニュージーランドとの間の飛行はニュージーランド国営の国際航空会社であるエァニュージーランド（以前のタスマンエムパイヤ航空）がチャーターする形をとる． 近年航空機の乗客数は激増していて 1964/65 年度には入港客数は 前年度より1,486人増加して5,761人 出港客では5,676人で 1,438 人の増となっている． 貨物の航空機による輸入は 1964/65 年度約100 トンで前年比約20トンの増 輸出は約19トンで約3トンの増となっている． 航空貨物は急速に船荷にとつて代りつつあるが 目下の所ではまだオーストラリアからは主として軽量貨物および腐敗しやすい食料品に限られ ニュージーランドからの貨物の中ではバターと肉がおもなものである．

1964/65 年度内に本島に着陸した航空機は 260 機で1960/61年から1964/65 年にいたる5年間の航空旅客・貨物の増加ぶりは次表によっても明かである：—

第3表　航空旅客・貨物（1960/61年～1964/65年）

年度	旅客(人)		貨物(ポンド)	
	入港	出港	輸入	輸出
1960/61	1,958	1,907	92,243	35,151
1961/62	2,679	2,646	157,658	19,369
1962/63	3,855	3,884	148,873	27,806
1963/64	4,275	4,238	174,919	35,290
1964/65	5,761	5,676	219,117	41,004

島の気象観測所では地表および上空概略観測を行ない航空機用の気象通報を行なっている． 観測記録は1日7回連邦気象庁に送られる． また内務省電離層予報局の観測所が 1964/65 年度に本島に建設されている．

島への必需食料品 燃料および一般貨物の大部分は海運によっている． しかしながら良港は一つもなく 汽船はすべて沖に投錨してハシケにより人も貨物も揚陸される． このハシケ便は島庁が運営 揚陸地は前述のように北東岸のカスケード突堤と南岸のキングストン突堤とがあり 天候と海況によってそのいずれかをつかう．ランチとハシケは南岸のキングストンの格納庫に収容される． 良港を作ろうという努力はこれまでもなされているようであるが まだ成功をみていない．

教育についていうと6才から15才までの島民のこども全部に義務（非宗教）教育が無料で施されている． 学校は島庁が管理し 校長一人の他6人の教師の教育陣はニューサウスウェールス州教育部から派遣され 同部の要目を実施し 1964年の生徒数 177 人 1965年6月末の在学者数は 幼児学級は男38人 女26人 計64人 初等学級 男40 女40 計80 中等学級は男23 女24 計47全校では男101 女90 計191人 1966年には 230 人であった． 中等教育は同州の中等学校研究委員会の新制度により科目は英語 数学 理学 家庭科学 社会 歴史地理 手工（木工 金工 製図） 商業および美術である． 語学科目は同州の通信学校による． 高等教育職業教育などのための給食制度もある． 中等教育の体育ではゴルフ バドミントン 柔道 テニス ソフトボール バスケットボール 卓球 クリケットなどをやることができる． 医療設備では常勤の政府医官 公共病院 薬局がある．

医療は無料ではないが健康保険制度がある． 個人の歯医者が一人いて 学校の生徒は年2回無料で歯の診療をうける Optometrist は個人的に時々来島する．島はきわめて病気が少なく 蛇も有毒なクモもいない．

島の財源はおもに切手の販売 酒類の販売および関税である． 現在の所 所得税はない． 島庁費はこの島の歳入と連邦政府からの補助金とによりまかなわれ 1963/64年度にはそれぞれ 82,087ポンド 33,700 ポンド計115,787 ポンド であった． 一部の禁制品を除いては輸入制限はない． したがって自由港と同様の値段で世界中の品物が買える店が 島中央のショッピングセンターに集中していて観光客をひきつけている． これらの店の開店時間は水・土が9時から12時半まで 他の日が9時から17時まで 店によっては10時から12時までと14時から16時まで および日曜午前中あいているものもある． 同島が観光地として近年脚光をあび年々増加する観光客をよびつつある一つの原因はこの自由港的な性格で 日本のラジオ テープレコーダ カメラ 真珠フランスの香水 化粧品類 ヨーロッパ各国の時計 カーディガン ジャケツ おもちゃ フィリピンの民芸品等々 この小さな島にと思うような品々が店中におかれ各国の観光客がこれにあつまっているのは一奇観ということができる． この島の観光地としての適性には温和な気候 静かな環境 政治的安定 島民の好ましい性格数々の健康なたのしみ 美しい風光 熱帯・温帯にわた

る果物・花など　オーストラリア・ニュージーランドからの渡航の容易さと両国の中間にあること　現在は適当なホテルなどの滞在費　格式ばらぬ生活様式など多くの要素が考えられる．　日々のたのしみとしては　散歩　乗馬　水泳　つり　ゴルフ　テニス　ローンボール　バドミントン　クリケットなどの運動があり　ノーホーク松は日曜木細工の用材として適し　気候と土とは庭造りに適い　野鳥の観察　写真の撮影には絶好であり　レコードやプレーヤーは安く　図書館がありといった状況である．　日本式のナイトクラブ　バーなど深夜族にむいた種類の施設は皆無で　映画館が一軒　週３回夜開き　ダンスが時々ホールやホテルでもよおされる位で　他はすべて家庭内で楽しむ．　テレビは現在なく　バーベキューやカクテルパーティが普通の楽しみとなっている．また連邦政府は　1961/62 年度には25,000ポンドの補助金をだして史蹟の保存を行ない　この種の遺蹟の修復保存をやって観光客をひきつけようという努力はその後も年々つづけられている．　島の生活の平和なことを示す一例として1965年６月末に終る１年間の裁判所の記録があって　遺言の確認されたものが５件　結婚関係の訴訟絶無　民事裁判２件　即決裁判所での告訴６件と審問に付されたもの４件　刑事裁判では受理情報３件と審問されたもの３件　検屍官の調査２件となっている．

現在の所　石炭その他の鉱物資源はなく　地質調査も十分に行なわれていないようである．

水資源についていうと　島民は大部分水を天水にあおぎ　目下の所これで十分たりている　また井戸をもっている所もある．　大きな施設は大部分　地表の流水を利用し　したがって家畜による汚染があるので　これは殺菌した上でないとのむことはできない．

電気は民間航空局から交流 240 ボルトのものを買っていて　島の部分によってはこれを利用することができる．

使用する場合は器具やモーターの大きさに制限をうける．　普通の家庭用器具　冷蔵庫　洗濯機（ヒーターなし）　一馬力未満のモーターはつかえるが　電気レンジ　給湯設備　大型放熱器などは許可されない．　この電気を使っていない島民は自家発電か加圧ランプを用いて点灯している．　全島にわたる下水設備や下肥処理場はないが　腐敗槽様式の使用が増加している．　上水は前述のとおり　井戸　天水による．　家はおもに現地産の松材を用い　古い石造りの家も若干ある．　近年住宅　フラット　商店の建設が島民および非島民によってさかんとなり　最近の建物は大体現地材を骨組に　輸入ファイブロセメントシートを外壁に用いている．

この小さな島にキリスト教の教会は英国教会　メソジスト派　セブンスディアドベンティスト派　ローマカソリックの四派のものが別々にちらばってそれぞれの建物をもっていて　英国教会は２つ別々の建物がある．

通貨はオーストラリアの十進法によるもので　紙幣には20ドル　10ドル　２ドル　１ドル　硬貨は50セント　20セント　10セント　５セント　２セント　１セントがある．　50セントは銀貨　１ドルは約 400 円に相当する．

旧式のオーストラリアのポンド　シリング　ペニーも1968年２月まで通用する．

島での生活費はけして安くはなく　また家事手伝いは実際上えられない．　現在の大体の労賃は非熟練労働者１時間1.25ないし1.50ドル　大工　鉛管工　電工　塗装工などは１時間２ドルである．　したがってなるべく自給自足しないと生活費は高くつく．　現地物価（1966年７月１日現在）の例をあげると次のとおりである：卵１ダース　55～95セント；ミルク1 l　14セント；バター１ポンド　45セント；さとう1kg　18セント；こむぎ粉 1kg　24セント；ベーコン1kg　240セント；じゃがいも 1kg　20セント；紅茶 1kg　170セント；しり厚切り肉 1kg　190セント；ガソリン１ l　13セント

同時期に島内にはホテルが５つ　ゲストハウスが４　フラットが10ある．　ホテルは三食つきで１日１人６ドルから10.5ドルで　シャワーはついていたりいなかったり　収容人員は最大68人　ゲストハウスは収容人員が６人から 24 人といった所で　三食つき１日１人６ないし 6.5 ドル　ほとんど全部が１人当り10ドルの前金を必要としている．

フラットは１ベッドルームが週34～36ドル　２ベッドルームが１週間42ドル　あるいは１人１週12ドル　２人１週14～19ドル　前金８～10ドルを要するものが多い．シーツなどの寝具　陶器　刃物類　冷蔵庫などはほとんど全部にあり　寝具の洗濯代も料金に含まれるものが多く　電気代燃料費は別．　一般に１週間以上滞在し静かに家庭的な休日を楽しむ客が多く　日本のように与えられた楽しみにさわがしくかりたてられるという所はみえない．　したがって新婚の人々や人生の仕事をおえた老人などが　他人にじゃまされず　またじゃまをしないでひっそりと自分たちの生活を楽しんでいる．　島の中央にあるショッピングセンターは自由港に近い性格をもっていて　女客のみならず男の客たちも楽しそうに買物をしており　この島の魅力の１つとなっていることは前にのべた．　酒類は島庁だけが輸入し　酒業販売許可をとったホテルか島庁の酒類販売所で買うことができ　大部分の酒はオーストラリアやニュージーランドよりも安い．

（以下53頁へつづく）（筆者は元所員　現在バンコクエカフェ事務局）